

## つるみ在宅ケアネットワーク 第25回合同勉強会 報告書

日 時 令和4年6月25日(土) 14:00~16:10  
場 所 鶴見区医師会 3F 会議室  
開催方法 Zoom 活用 ハイブリッド開催

14:00~ 司会進行

鶴見区在宅医療連携拠点 担当医師 佐藤 忠昭



鶴見区医師会在宅部門 鈴木 志律江  
在宅医療連携拠点「さわやか相談室」の事業報告



14:03~ 開会挨拶

鶴見区医師会 理事長 芝山 幸久



14:05～ (1) 済生会横浜市東部病院 呼吸器内科部長 濱中 伸介 先生  
テーマ「COVID-19 診療の振り返り」

1. 新型コロナ感染症について

入院治療を要する者の推移 (神奈川県)

2. 2020年2月 ダイヤモンドプリンセス号の対応時のこと

- ・不明確な病状経過と不透明な治療法
- ・感染リスク
- ・情報集約、課題

3. 2021年8月 第5波の対応時のこと

- ・入退院の状況
- ・デルタ株の特徴
- ・病院全体の応援体制の強化



14:15～ (2) 済生会横浜市東部病院 9階東病棟 看護師 佐々木 一哉 氏  
テーマ：コロナウイルス状況報告 一般病床の目線から

1. 感染対策 (PPE)

- ・感染予防対策
- ・マスクの種類と効果
- ・準備室の様子

2. 対応に難渋したこと

- ・覚醒下腹臥位療法のメリット、デメリット
- ・認知症患者の対応

3. コロナウイルス流行下における退院支援

- ・患者概要 (入院6か月の事例)
- ・自宅退院を目指す上での問題
- ・退院前訪問について



14:28～ (3) 鶴見区医師会 理事長 芝山 幸久  
テーマ：鶴見区医師会の取り組み

- ・2020年2月 合同勉強会の対応
- ・総持寺でのドライブスルー方式のPCR検査
- ・医療機関へ発熱外来の要請
- ・ワクチン接種対応 (個別、集団)
- ・鶴見地域新型コロナに係る会議 (通称：コロナ会議) の実施
- ・自宅療養者見守り事業の参加



14:42～ (4) 鶴見区歯科医師会 会長 佐藤 信二 先生

テーマ：歯科医院における院内感染対策

- ・感染管理の基本（標準的予防策）
- ・感染源の再確認
- ・感染経路について（予防策）
- ① 術者の手指からのルート予防策（グローブ）  
全ルートの8割を占める
- ② 汚染器材からのルート予防策
- ③ エアロゾルによる環境へのルート予防策
  - ・汚染器材の洗浄と滅菌について



14:54～ 『質疑応答』1回目

Q1

- ・病院から在宅へ帰る時に、在宅の方とのスタッフの連携で困った事はありましたか？  
例えばケアマネジャーさん、訪問看護師さん、訪問リハ、福祉用具と出たと思いますが、いかがだったでしょうか？

A1：東部病院 佐々木看護師

- ・先ほどお話した事例の中で、ケアマネジャーさんとは退院当日に同席していただき、直接お会いする事ができて、大きく困ったという事はなく、今回の事例に関してはとても助かったというのが実例です。

Q2

- ・歯科は大変だと思いますが、特に訪問歯科は完全装備で行っているのですか？

A2：佐藤歯科医師

- ・なるべく完全装備で行きますが、この夏は非常に暑くて、今日も午前中に6件の訪問ありましたが、たいていの方は冷房がないです。また、セーターを着ていたり、リモコン間違えて暖房が入っていたりする場合がありますので、そこで完全装備すると本当に脱水症状で、熱中症になりますので、治療によって調整しています。

Q3

- ・たぶん第5波の時とかは面会もできなくて急な入院、とても多かったですと思います。  
お話にあった様な ECMO を 120 日まわした方もいる様な中で、ちまたでは「人生会議、人生会議」と聞くのですが、あまりご準備できないで入院した方はたくさんいらっしゃると思いますが、そのあたりでお困りの事とかはありませんでしたか？

A3：東部病院 濱中医師

- ・第5波の時を中心に考えますと我々の方でもそこをすごく細かく考える余裕は正直ありませんで、面会等はオンラインとか、具合が悪い方については防護服を着てもらっての面会をしまして、何とかぎりぎりの意志支援と言いますか、意思確認と言いますか、そういうのをやりながら、その都度考えていったというのが正直なところで、いわゆる「人生会議」「ACP」のすごくいい、深いところまでできていたかということ、正直難しい状況だったかなと思っております。

15：03～ (5) うしおだ老健やすらぎ 施設長 窪倉 孝道 先生

テーマ：新型コロナウイルス感染拡大と高齢者施設内クラスター

－行政支援の動向と今後について－

- ・高齢者施設クラスターの負荷
- ・病床と入院者数の推移
- ・高齢者施設への医療支援強化
- ① 第6波の振り返りと第7波への対応
- ② 神奈川県の高齢者施設対策概要
- ③ 医療支援に必要な情報の整理・収集
- ④ 福祉施設職員のためのPCR検査の要望
- ⑤ 神奈川県PCR事業アンケートについて
- ・高齢者施設内の治療の問題点と不安



15：20～ (6) 鶴見区役所 鶴見区福祉保健センター長 市川 裕章 氏

テーマ：新型コロナウイルス感染症に対する鶴見保健所の対応

- ・横浜市内の陽性患者数の推移
- ・保健所の主な業務（聞き取り、調整）
- ・第5波の状況と保健所の対応、課題
- 保健所の機能強化
- 自宅療養者への対応
- ・第6波の状況と保健所の対応、課題
- 様々な施設でクラスター発生
- ・第5波、6波を振り返って
- ワクチン接種のポイント



15:31～ (7) 鶴見消防署 救急担当係長 消防司令 押久保 玲 氏

テーマ：鶴見消防署とコロナ

- ・コロナ（疑い含む）の出動件数  
出動件数の変化  
医療機関の選定困難の減少
- ・鶴見消防署の概要
- ・消防の業務



15:46～ (8) 鶴見薬剤師会 阿部薬局 薬剤師 阿部 正隆 氏

テーマ：コロナ禍の体験をシェアしよう

- ・コロナ関連業務実績
- ① 発熱外来対応
- ② 神奈川県検査無料化事業への取り組み
- ③ 新型コロナウイルス抗原検査キットの販売
- ・陽性者への自宅対応について
- ・検査無料化事業の業績
- ・待合室の感染防止対策
- ・まとめ、今後の課題



15:58～ 『質疑応答』 2回目

### 【ご意見として】

特別養護老人ホーム やまゆりホーム：施設長 晝間氏（抜粋内容）

・先ほどの窪倉先生のお話にて、老健協会の方でアンケートをとったという事でしたが、横浜市内の特養（特別養護老人ホーム）でも全く同じアンケートをとっております。先生が先ほどお話しされた傾向と、ほぼほぼ同じような傾向をとっておりますが、3番目にあります「施設では、クラスターを経験しましたか？」の問いに、市内の特養では、66%ぐらいが、経験したという事になっています。

なかなかPCR検査事業の継続は、窪倉先生がお話しされたように、施設側からすると、当然そこでの無症状の感染者が解るとというのが一つ大きいのと、それをやる事によって1週間に1回、職員への啓発にもなりますし、逆に職員からすると「自分が働いている所に持ち込まない」という事を特に一義的に行っています。職員も「自分は持ち込んでいない」という自分が抱える精神的ストレスの軽減にもつながっていると思います。特養の方も、神奈川県、横浜市の方へ声掛けをしていますので、ぜひ老健協会と足並みをそろえながら伝えていければと考えています。



【情報提供として】

鶴見区薬剤師会：薬剤師会前会長 石渡薬剤師

・現在新型コロナの治療薬としてラゲブリオとかパキロビットと出ておりますが、薬局においては、ラゲブリオは3人分、パキロビットは5人分が在庫の増減になっています。これだと先ほど先生方からお話があったクラスターには対応できないということで、各地区、鶴見区にも1件、クラスター発生時に対応できる薬局を設けておりますので、万が一クラスター等が発生しましたら、ご連絡いただければと思います。



Q4

・私たち訪問看護の方も「うつさない」・「もらわない」という事で、N95のマスクと普通のマスク、2重装着で訪問に出ています。救急隊の方はいつもされているのですが、施設とかではN95のマスクは使われていますか？

A4：うしおだ老健 窪倉医師

・老健ではN95のマスクを使っております。ただ昨今、オミクロン株の数も減ってきている状況にありますので、密接介護が必要な場面、リハビリ職とか、食事介助時とか身体介護する時には、N95でそれ以外ではサージカルというようにメリハリをつけていますが、原則使っています。

16:08～ 閉会挨拶

鶴見区在宅医療連携拠点 担当医師 佐藤 忠昭



16:10 終了



参加者総数：112名

医師：10名 歯科医師：3名 薬剤師：13名 病院職員：3名

病院看護師：6名 訪問看護師：31名 地域包括支援センター：12名

ケアマネジャー：19名 施設職員：2名 理学療法士：2名 ヘルパー：1名

行政：3名 事務：5名 在宅医療連携拠点相談員：2名